

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東)

事業所番号	0671200301		
法人名	有限会社ウェルネスさがえ		
事業所名	グループホームあしたば		
所在地	寒河江市大字西根字石川西294-3		
自己評価作成日	平成25年 9 月 30日	開設年月日	平成18年 3月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者の笑顔を大切に、役割を持ってもらいながら、共に支え合う関係づくりを築いている。
- ・入居者・家族・職員の各関係間において、会話・相談等気軽に話せるような雰囲気作りをし、信頼され温もりのある事業所を目指している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3-31		
訪問調査日	平成 25年 10月 23日	評価結果決定日	平成 25年 11月 15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平屋作りの落ち着いた建物ゆとりした時間を過ごせる住まいとなっています。利用者は思い思いの場所でくつろぎながら、和やかな雰囲気と自然な笑顔が見られます。職員は「自分だったら」を基本にし、一人ひとりに徹底されています。またホーム長や管理者の方針が家族等にも理解され、何時でも誰とでも気兼ねなく話が出来る関係で信頼も厚く、さらに高めようと日々のケアに取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作上げた理念をホールの見やすい所に掲げ、その理念を全員で共有し、毎日の実践につなげている。	理念は利用者がそれを書き認め、掲示している。「安らぎと喜びのある毎日を自分らしく生きる」にはどうあるべきなのか、自分だったらどうしてほしいのか、自由な選択のもとでケアに努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃から、近隣の方と挨拶・会話を交わしながら近所つきあいをしている。また、市の文化祭への参加、祭りみこしでの近所とのふれあい、近隣での外食、ボランティアの受け入れなど日常的に交流を図っている。	近所からおすそわけや、地域行事、学校の合唱会などへ参加し、町内会の一員として積極的なつきあいが見られている。また職員は市民講座への出席や認知症サポーターとなり地域交流も深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の認知症サポーター養成講座の登録会員として、各地域に出向き、認知症の人の理解や支援の方法を広めたりしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月に一回、運営推進会議を実施し、事業所の活動報告や質疑を行い、各方面の意見・アドバイスを頂きながらより良いサービスになるよう努めている。	参加者が思っていることを話し合える「ざっくばらんな情報交換」の場として定着している。話し合いから子供神輿の訪問や防災訓練への参加なども実現している。外部評価結果を報告し、意見をもらい双方向的会議からサービスの質向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ホーム長・管理者は、直接市へ足を運びながら、事業所の実情や、相談、情報収集をしながら、密に連絡をとりながら協力関係を築くよう努めている。	空き情報や困難事例を伝えながら、市の担当者から適切な助言を得ている。市民講座の講師依頼を受けるなど、互いの信頼関係構築を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	運営規定に、原則的に身体拘束をしないという方針を掲げ実践している。職員は、その弊害を認識し、安全を確保しながら、創意・工夫しながら取り組んでいる。	身体拘束防止マニュアルをもとに研修会を定期的に行い、「身体拘束はしないケア」を徹底するようにしている。「自分だったら」を考え方の基本に、外出傾向を把握しながら一緒に外出を楽しむなど対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修会等に参加し、職員への伝達研修を行いながら、虐待のない介護を実践している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の研修会等で学ぶ機会を持ち、必要に応じて対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約には、十分な時間をとり契約している。また、その中で、質問・疑問点については、わかりやすい説明に心がけ、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には、近況報告をするとともに、何でも話し合えるような雰囲気作りに努めている。また、ホール内に意見箱を設け、意見等を表せるようにしている。	気軽に来訪できる雰囲気の良い事業所として理解があり、面会時は暮らしぶりを伝え職員は全員対応できるようにしている。要望や意見はミーティングや職員会議で話し合い、速やかに対処している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、職員会議を実施し、出来るだけ全職員が出席するようにし、全員で話し合える機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者自ら介護現場に入り、現場の状況を把握し、職員が働きやすい環境、各自がやりがいを持って働けるよう整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験の浅い職員には、慣れるまでマンツーマンで指導・研修をしている。また、経験年数に応じて、外部研修に参加する機会を設け、伝達研修を実施し、スキル向上につなげている。	経験の有無や長短だけでなく、段階に応じた内部指導や外部研修を実施している。その場で注意しあい、全体会議で方向性を確認しながらレベルアップに繋げている。資格取得には休暇の配慮を最大限行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	県のグループホーム連絡協議会に加入し、定期的な会議への参加、交換実習への参加、各種研修会への参加などにより、同業者との交流を図っている。	交換実習は職員が交替で参加している。初心に戻って振り返ったり、改善のヒントを得るなどの具体的成果をケアに取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談時に、出来るだけ不安なく生活できるよう、本人や家族から要望・相談をうけるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時には、家族の話には十分な時間をとり、共有しながら信頼関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談や相談で、本人や家族が必要としている支援を聞きながら、他のサービス利用も含め柔軟な対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人の出来る事を手伝ってもらったり、人生の先輩として生活の知恵を教えてもらったり、共に過ごしあう関係作りに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、近況報告をし、相談したり、時には協力してもらいながら、共に支え合う関係づくりに努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人の訪問を受けたり、馴染みの場所に出かけたりし、これまで大切にしてきた関係が途切れないような支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、それぞれの役割を敬い、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、協力しあい、支え合えるような支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用の間に培われた関係性を大切にしよう心掛けている。また、他事業所に移動した場合には、関係者に本人の状況やケアについて情報を伝え、相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、本人や家族から趣味や希望等を聞いたり、毎日の生活の中で会話を通して希望・意向の把握に努めている。また、困難な場合には、具体的な言葉を出しながら意向の把握に努めている。	日々の暮らしの中での何気ない会話や散歩から引き出すことを、職員全体で実践している。言葉が出ない利用者と職員の1対1での関わりのなかで、筆談を主にしながら選択してもらえるように取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、家族より生活歴などの基本情報を作成してもらったり、聞き取りなどにより、一人ひとりの経過等の把握に努めサービスに活かしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りの中で、毎日の心身状態を把握しながら暮らしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の職員会議で、一人ひとりの課題やケアについて、本人・家族・主治医等からの意見を反映させ、職員全員で情報を共有して介護計画の作成に努めている。また、家族から介護計画の同意を得ながら実践している。	あえて担当制にしないで、「全体で観て、検討し、対応する。」ことで職員の観察力の向上や気づきの深化を促している。職員会議やカンファレンスで話し合ったことを介護計画に随時反映させ、「自分らしく生きるため」の介護を実践している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各人の介護記録に、日々の様子や気づき等を記入し、申し送り等で情報を共有しながら実施している。また、職員会議で意見を出し合いながら介護計画の見直しをしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの受け入れをしたり、馴染みの店や公共施設や図書館等を利用したりして、楽しみを持って暮らせるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人・家族の希望するかかりつけ医での受診になっている。また、ホームでの生活状況について、情報提供しながら適切な医療が受けられるよう支援している。	馴染みのかかりつけ医へ家族の付き添いで受診し、緊急時や情報提供が困難な場合は状況報告書を持参したり、看護師が同行するなど安心に繋がっている。薬の変更などの服薬支援は複数で確認を行い細心の注意を払っている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、日常的な健康管理を行っている。また、日々の関わりの中で、情報や気づきを看護職員に伝え、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には、病院関係者に詳しく情報を提供するとともに、面会に行くなどして、本人の回復状況を把握し、早期退院に向けての相談や連携に努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に、重度化した場合や状態が変化した時の事について、事業所として出来ることを説明し、話し合いながら対応している。	利用者の状態の変化に応じ、入院が長引く場合など事業所に戻れる予測を付けながら家族等と話し合い、居室を確保し不安軽減に努めている。看取りについては医療連携が十分に整っていない事もあり、入所施設の紹介を行うなど、利用者、家族等が納得できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急蘇生訓練の研修会に参加したり、応急手当のマニュアル等で学習している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民や消防署の協力を得て、定期的に避難訓練を実施している。また、災害に対応するため、懐中電灯等の備品・食材・飲料水の備えもしている。	年に2回の訓練は主に夜間を想定し、消防署立ち合いの下実施している。地区の防災訓練へ職員が参加し、事業所の訓練時に住民から見学してもらい、反省点など話し合っている。備蓄も確保し非常時に備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話の内容や声の大きさに注意を図りながら対応している。排泄の誘導には、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしたり、雑談しながら対応したりし、工夫しながら対応している。	これまでの生活環境や職歴なども念頭に置きながら、日頃、命令口調や目の不自由な方へきめ細やかな説明をするなど人格を欠いた言葉遣いにならないよう心掛けている。入浴やトイレ誘導時の声掛けなどに留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中で、本人の希望を聞いたり、自己決定できるような働きかけに努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活リズムや心身の状況に応じて本人らしく過ごせるよう、出来るだけ希望に沿うよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人好みの洋服を着用したり、化粧をしたり、本人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時に、希望を取り入れたり、外食・出前・行事食を交えながら、食事を楽しめるよう支援している。また、準備や後片付けを手伝ってもらいながら、利用者の力を活かしている。	家族等からの差し入れや自家菜園の収穫物を入れ臨機応変な献立となっている。買い物、準備、片付けなど利用者も共に行い、同じ食卓を囲み家庭にある風景が広がっている。寿司が好評でおやつ作り、行事食や外食など楽しみに繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立作成時には、栄養のバランスを考えながら、嗜好品や刻み食なども取り入れている。また、水分も食事時以外もお茶時間を設け確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄を実施している。一人ひとり、自力で磨いた後、職員が仕上げ磨きを行い、口腔洗浄液等も使用しながら清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄について、記録・把握しながらトイレ誘導を行い、失敗の回数を減らせるよう支援している。	訴える利用者も多く、意志の疎通が困難な方はパターンに応じて羞恥心への声掛けに配慮しながら誘導を促している。紙パンツから布パンツ利用になるなどレベルアップの例もありトイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促すために、食事に野菜を多く取り入れたり、乳製品を摂るようにしたりしている。また、ラジオ体操を毎日の日課とし、身体を動かすよう心掛け、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本的な入浴日は決めてあるが、本人の希望や心身の状態に合わせて臨機応変に入浴支援を行っている。	湯温、時間帯、同性介助など利用者の希望を第一に、時間を気にする事なく職員との会話も弾み、ゆっくり寛げる入浴となっている。皮膚の弱い方はボディシャンプーなどに配慮し安全面にも心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人にあわせ、昼寝・休息・散歩・運動をしたり、寝る前には、足浴をして安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりのカルテに、それぞれの処方箋を保管し、常時確認出来るようにしている。薬の変更時には、受診記録、介護記録、申し送り等で共有し、服薬の支援と経過観察に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの生活歴に合わせ、趣味の現状維持・好きな事・楽しい事を取り入れ、時には、気分転換にドライブや外食へ出かけている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と利用者がいっしょに食料や衣類の買い物に出かけたり、希望で図書館に出かけたりし、外出支援に努めている。また、普段は行けないような場所へ全員で出掛け楽しんでいる。また、家族に働きかけながら、外出・外泊する機会を応援している。	これまでの生活の継続と捉え、周辺への散歩、自家菜園の収穫や毎日の買い物など、多様な外出の機会を作っている。お盆や正月には事業所で写したアルバムを自宅へ持参し、利用者・家族の笑顔に繋がっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者もおり、購入したい物がある時は、職員と一緒に出掛け、買い物を楽しんでいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話できるように支援している。また、家族から電話があった場合には、本人にも会話してもらうようにしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール内には、利用者が製作した季節の貼り絵やカレンダー等を飾っている。また、テレビを中心にソファがあり、座る場所が自然に大体決まっており、居心地の良い場所となっている。	共用空間全体が明るく清潔感があり、床暖房が心地良く、玄関には利用者が生けた花を飾り、リビングには創作物を掲示し季節を感じる事が出来る。ソファでテレビを観たり、畳スペースに冬期間はこたつが掛けられ憩いの場となり、思い思いに過ごせる空間づくりをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでテレビを観たり、気の合った利用者同士で談話したり、テーブルで好きなことをしたり、自室で読書をしたりし、それぞれの居心地の良い場所で過ごしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、それぞれ使い慣れた物を持ってきてもらっている。また、居室には、写真や置時計を置いたりして、居心地良く過ごせるよう工夫している。		卒寿を超えた方の手芸品や書道を飾り、生き生きとした姿が見られる。大切な位牌などを持ち込み、一人ひとりを尊重したその人らしい居室になっている。床掃除は日課として利用者も一緒に行い、居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内や廊下には、安全のために手すりを設置したり、トイレや浴室入口には、場所がわかるような表示をし、自立した生活が送れるように工夫している。			